

清本 正人 / KIYOMOTO, Masato

生物

ウニ類

自然・応用科学系 / 理学部生物学科 / 湾岸生物教育研究センター

URL: <http://marine.bio.ocha.ac.jp/tateyamastafj.htm>、<http://bios.cc.ocha.ac.jp/lab.html>、<http://researchmap.jp/read0197204>

### ■ 研究者情報

連絡先

Email: [kiyomoto.masato@ocha.ac.jp](mailto:kiyomoto.masato@ocha.ac.jp) / TEL: 0470-29-0838 / FAX: 0470-20-9011

専門分野

発生生物学、海洋生物(特に棘皮動物)

### ■ 研究成果情報

## ウニ類の生殖シーズンの調節と卵の長期保存

### キーワード

産卵期調節、配偶子形成、海洋生物、実験動物、生物検定

### 研究内容

#### ■ 概要 (背景・目的・内容)

・ウニ類の卵は研究材料や理科教材として、広く使われています。しかし、産卵期が決まっているので、いつでも使うことが出来ませんでした。  
・産卵期のウニを送ったり飼育するために手間や設備が必要です。

#### ■ プロセス・研究事例

・飼育環境を半年から1年調節することで、バフンウニの産卵期を調節することが可能になりました。  
・採取した卵・精子を1週間から半月保存できるようになりました。親のウニを使う必要がなくなり、簡単に実験を行うことができます。

#### ■ 潜在可能性 (応用・将来展望)

・実験動物の材料提供の事業化、化学物質等の生物検定への応用、実験キット化

受精や発生の実験材料として  
重要なウニの卵や幼生

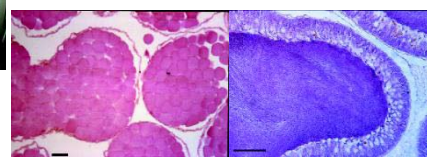


しかし、天然のウニ  
の産卵期は短い！

バフンウニ 2～3月  
ムラサキウニ 7～8月  
アカウニ 11月



バフンウニでは環境制御により任意  
の時期に成熟させることが可能に！



生殖巣に充満した卵と精子

### 特許・著作物等の知財情報、製品化情報、あるいは社会貢献実績

年間、約30の大学・研究所と50程の中学高校へ実験材料を提供。

### 産学官・社会連携の可能性

- 共同研究
- 技術提供